

11月度学術講演会

日 時	11月18日（土）午後2時
演 題	性格タイプ別生活習慣病アプローチと家族へのタイプ別アプローチを考える
講 師	竹中医院 副院長 竹中 裕昭 先生
出席者数	16名
担 当	富永良子

性格タイプ別生活習慣病アプローチと家族へのタイプ別アプローチを考える

竹中医院 副院長
浪速区医師会 理事 竹中 裕昭

外来には様々な患者さんが来られます。中には「なぜあの人はこうなのだろう？」という患者さんに出会うことも少なくありません。同様に「なぜあの家族はこうなのだろう？」という患者さんのご家族に出会うこともあります。

今回、人間のタイプを4つのタイプに分けると共に、医療現場で困る家族も4つのタイプに分け、参加者のみなさまの体験談をお聞きしながら、その効果的アプローチを検討してみました。

患者の性格タイプ別アプローチ

1) コントローラー（外交合理的 / 親分タイプ）

行動的で決断力があり、自分で物事を進めて自分で結論を出すことを好むタイプです。配慮や遠回しの表現を好まないため、話は短く、要点は3つぐらいに絞り、結論を単刀直入に伝え、自分主導で行ってもらうことが重要です。

2) アナライザー（内向合理的 / ボヤキタイプ）

じっくりと分析し、対応を練るタイプです。質問は具体的に行い、分析に必要な客観的情報をなるべく多く提供することが重要です。曖昧なことや抽象的な話は苦手なため、変化に弱い面があるので、急激な方針転換は行わない方がよいと思われます。

3) プロモーター（外交直感的 / 大阪のおばちゃんタイプ）

アイデアが豊富で、新しいことを始めたり臨機応変さに優れているタイプです。飽きっぽい面があるので、なるべく自由に意見やアイデアを求め、出た意見を否定せず、それぞれの案の長所、短所を検討しながら最善の方法を見出すことがよいと思われます。

4) サポーター（内向直感的 / 癒し系タイプ）

円滑な人間関係を重視し、正しさよりも雰囲気重視しがちなタイプです。協調性に優れる一方、本音や意見はこちらから積極的に引き出すようにしないと出てこないことが多く、結果だけでなく過程を承認してあげることが重要です。

医療現場で困る家族のタイプ別アプローチ

1) 柳に風家族

医療者が何を提案しても、先延ばしをしたり、他人事のように聞き流してかわしてしまう家族です。コンタクトを取り続けることを第1義とし、差し迫った課題については放置するデメリットを明確に伝える必要があ

ります。

2) 押し付け合い家族

何かと理由をつけて関わりから逃れようとし、家族同士が目の前で喧嘩したり、医療者に押し付けようとする家族です。一歩距離を置いて相手の行動の理由を探ると共に、差し迫った課題については放置するデメリットを明確に伝える必要があります。

3) 立ち尽くし家族

一家の大黒柱が突然倒れた場合など日々の課題に手いっぱい、医療者の提案を受け入れたくてもそのエネルギーがない家族です。困った時の窓口になることを伝え、家族のレベルに応じた目標を再設定すると共に、福祉と連携した資源の大量投入を検討する必要があります。

4) てんやわんや家族

いわゆる“遠くの親戚”や“California daughter”と呼ばれる家族の一部、または家族全員が突然、結論をひっくり返したり、無理難題を要求する家族です。担当者一人に押し付けず、できること、できないことを明示し、言葉のトゲを抜いて受け止めながら合意を形成する努力が重要ですが、決裂することを厭わずに、組織として毅然と対応することも重要です。

このように患者さんやご家族をたった4つのタイプに完全に分けてしまうことは不可能ですが、ある程度のタイプを類推することで、効果的アプローチを探るヒントにしていただけましたら幸いです。

会場の先生方からは、自分の本来の性格タイプを患者さんに応じて変えている、医療訴訟予防につながる可能性があるという御意見をいただきました。